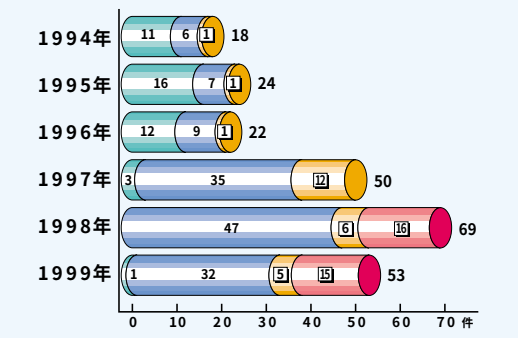
輸血情報

【輸血血液の保管検体にウイルス核酸が検出された症例 −1999年−】

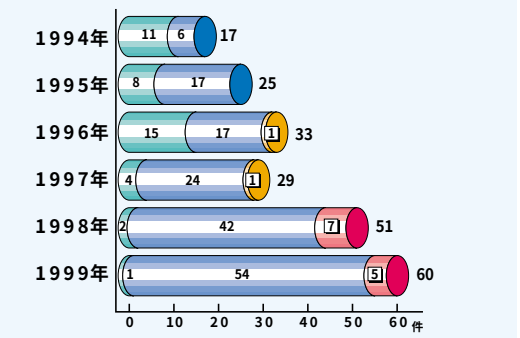
輸血によるウイルス等の感染が疑われ、1999年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例（自発報告）及び献血後情報への対応を行った症例の中で、輸血血液の保管検体にウイルス核酸が検出されたものは27例（HBV:20例 *1、HCV:5例、HIV:2例 *2）でした。

*1 献血者は18名　　*2 献血者は1名

輸血によるウイルス感染の疑いとして血液センターに報告された症例及び献血後情報への対応症例の件数とその解析結果【HBV・HCV】−1994〜1999年−



HBV感染として医療機関から報告された数とその解析結果（HBV関連マーカーが陽転した例）



HCV感染として医療機関から報告された数とその解析結果（HCV関連マーカーが陽転した例）

1999年においてもこれまでと同様に、ほとんどの自発報告症例では輸血血液の保管検体に当該ウイルス核酸が検出されず、輸血による感染ではないことが推定されました。
なお、1999年10月の献血血液に対する核酸増幅検査（NAT）導入に伴い、輸血血液の保管検体に当該ウイルス核酸が検出された症例が2000年においてさらに減少しています（輸血情報0107−66参照）。

患者情報等【HIV:2例】（1999年）[献血血液に対するNAT導入以前の輸血症例]

献血後情報（分画用原料血漿の500検体プールNAT陽性情報）に基づき照会を行った医療機関から報告された症例★

症例No.	原疾患	輸血用血液※	年齢	性別	輸血前の検査結果	輸血からHIV関連マーカーが陽性と判明するまでの期間（週）[ ]：陽性と判明したHIV関連マーカーの種類	経過		
							HIV RNA	HIV抗体	輸血からの期間（週）
1	胸部下行大動脈瘤	FFP	50代	男	HIV 抗体−	2.6 [HIV RNA+]	+	+	2.6
2	胃癌	Ir-RC-M・A・P	70代	男	HIV 抗体−	8.7 [HIV RNA+]	+	+	8.7

★ 献血者は1名　　※保管検体にウイルス核酸が検出された輸血血液の種類

患者情報等【HCV:5例】（1999年）[献血血液に対するNAT導入以前の輸血症例]

献血後情報（分画用原料血漿の500検体プールNAT陽性情報）に基づき照会を行った医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液※	年齢	性別	輸血前の検査結果	輸血からHCV関連マーカーが陽性と判明するまでの期間（週）[ ]：陽性と判明したHCV関連マーカーの種類	ALT最高値		経過		
							(IU/L)	輸血からの期間（週）	HCV RNA	HCV抗体	輸血からの期間（週）
1	多発性骨髄腫	Ir-PC	40代	男	不明 *1	12.6 [HCV RNA+]	11	16.7	+	+	16.7
2	肝癌	FFP	70代	男	HCV RNA−	10.6 [HCV RNA+]	298	34.1	+	+	43.1
3	再生不良性貧血	Ir-RC-M・A・P	30代	女	HCV RNA−	5.7 [HCV RNA+]	46	60.0	+	−	8.0
4	胃潰瘍	RC-M・A・P	40代	男	不明	8.1 [HCV抗体+]	930	8.3	−*2	+	20.4
5	多発性骨髄腫	RC-M・A・P	60代	男	不明	11.4 [HCV RNA+]	69	11.4	+	−	11.4

※ 保管検体にウイルス核酸が検出された輸血血液の種類　　*1 輸血3カ月後:HCV抗体−、その後陽転　　*2 インターフェロンにて治療中

●患者情報等【HBV:20例】(1999年)［献血血液に対するNAT導入以前の輸血症例］

症例No.	原　疾　患	輸血用血液※	年齢	性別	輸血前の検査結果	輸血からHBV関連マーカーが陽性と判明するまでの期間(週)［ ］: 陽性と判明したHBV関連マーカーの種類	ALT最高値		経　過			
							(IU/L)	輸血からの期間(週)	HBV DNA	HBs抗原	HBs抗体	輸血からの期間(週)
◉自発報告:輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から赤十字血液センターに報告された症例												
1	肝細胞癌	FFP	60代	男	HBs抗原−	16.1［ HBs抗原+ ］	1,222	16.1	N.T	+	−	17.1
2	急性リンパ性白血病	RC-M･A･P	10代	女	HBs抗原−, HBs抗体−	39.4［ HBs抗原+ ］	465	39.4	+	+	−	69.0
3	胃癌、細菌性腸炎、敗血症	FFP	70代	男	HBs抗原−	23.9［ HBs抗原+ ］	549	23.4	−	−	+	75.0
4	肝内結石、胆汁ろう	FFP	50代	男	HBs抗原−	26.3［ HBs抗原+ ］	496	28.0	N.T	+	−	37.6
5	黄紋筋肉腫	RC-M･A･P	40代	男	HBs抗原−	15.9［ HBs抗原+ ］	16	2.4	+	N.T	N.T	21.9
◉献血後情報(自発報告症例(No.1,2)の解析から判明したNAT陽性血液と同一採血番号の輸血用血液の調査)に基づき照会を行った医療機関から報告された症例												
6	急性腹症、敗血症	FFP	70代	男	HBs抗原−,HBs抗体−	23.9［ HBs抗原+ ］	51	1.3	−	−	−	83.3
7	C型肝硬変、肝細胞癌、食道静脈瘤、糖尿病	FFP	40代	女	HBs抗原−	9.1［ HBs抗原+ ］	464	16.0	+	N.T	N.T	30.4
◉献血後情報(分画用原料血漿の500検体プールNAT陽性情報)に基づき照会を行った医療機関から報告された症例												
8	慢性関節リウマチ	Ir-RC-M･A･P	60代	女	HBs抗原−,HBV DNA−	9.0［ HBs抗原+ ］	67	14.0	N.T	−	+	19.7
9	急性骨髄性白血病	Ir-PC	40代	男	HBs抗原−	21.7［HBV DNA+］	92	3.7	+	+	−	37.9
10	出血性胃潰瘍、左腎癌	RC-M･A･P	80代	男	HBs抗原−	12.0［HBV DNA+］	71	17.3	+	+	−	17.3
11	胆管結石	Ir-RC-M･A･P	80代	男	不明	11.3［HBV DNA+］	不明	不明	+	−	−	11.3
12	膀胱腫瘍	Ir-RC-M･A･P	70代	女	HBs抗原−	6.7［HBV DNA+］	1,094	17.7	N.T	−	+	23.9
13	解離性大動脈瘤	RC-M･A･P	60代	男	不明	6.0［ HBs抗原+ ］	26	4.1	+	+	−	9.1
14	胃潰瘍出血	Ir-RC-M･A･P	70代	女	HBs抗原−	5.9［HBV DNA+］	135	35.4	+	+	−	51.7
15	急性骨髄性白血病	Ir-PC	40代	女	HBs抗原−	10.0［ HBs抗原+ ］	370	12.6	+	+	−	13.0
16	出血性十二指腸潰瘍、頸髄損傷	Ir-RC-M･A･P	70代	男	HBs抗原−,HBV DNA−	6.0［HBV DNA+］	73	0.3	N.T	−	+	34.3
17	骨髄異形成症候群	PC	60代	女	HBV DNA−	17.3［HBV DNA+］	不明	不明	N.T	+	−	36.6
18	骨髄異形成症候群	PC	40代	男	HBs抗原−	9.1［ HBs抗原+ ］	275	60.3	+	+	−	27.4
19	肝硬変(肝不全)、腎不全	Ir-RC-M･A･P	60代	女	HBs抗原−	11.0［ HBs抗原+ ］	不明	不明	N.T	+	N.T	12.3
◉献血後情報(分画用原料血漿の500検体プールNAT陽性献血者における前回献血血液(保管検体)の個別NAT陽性情報)に基づき照会を行った医療機関から報告された症例												
20	悪性胚細胞腫(脳腫瘍)	Ir-PC	10代	男	HBs抗原−,HBs抗体− HBV DNA−	32.7［HBV DNA+］	61	57.6	−	−	−	70.7

※ 保管検体にウイルス核酸が検出された輸血血液の種類

◆参考　標記症例数からみた輸血患者10万人あたりの推定感染頻度−1999年−

HBV:1.6(129万人*あたり20例)　HCV:0.4(129万人*あたり5例)　HIV:0.2(129万人*あたり2例)

$$*\text{129万人：全国の推定輸血患者数} = \frac{\text{輸血用血液の年間総供給単位数(全国分)}}{\text{東京都輸血モニター病院の年間総輸血単位数}} \times \text{東京都輸血モニター病院の年間総輸血患者数}$$

◆参考　【 輸血後肝炎の診断基準−抜粋(一部省略)−** 】

1. 輸血後2週以降6か月の間に、ALTが100I.U./L以上の肝機能異常が発生し、継続的に2週以上に及んだ場合、輸血後肝炎と診断する。

2. 上記1.の症例の中で、輸血後に、HBs抗原が陽転するかHBV-DNAが陽性化したものを輸血後B型肝炎と診断し、同じくHCV抗体が持続陽転するかHCV-RNAが陽性化したものを輸血後C型肝炎と診断する。

**1996年3月　厚生省肝炎研究連絡協議会(輸血後感染症に関する研究班)

日本赤十字社中央血液センター　医薬情報部
〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-31
TEL:03-5485-6607　FAX:03-5485-7620
■お問い合わせ